

CentreCOM® 9606SX/SC・9606T リリースノート

この度は、CentreCOM 9606SX/SC・CentreCOM 9606T をご購入いただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、ユーザーマニュアルとコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl06 (2.5.3-06)

2 重要：バージョンアップ時の注意事項

ソフトウェアバージョン **2.2.2 pl25** 以前から **2.5.3 pl06** にバージョンアップすると、最初の再起動時には「設定なし」の状態では起動します（**2.5.3 pl04** から **2.5.3 pl06** へのバージョンアップでは、この問題は起こりません）。

バージョンアップ後は、コンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
```

```
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥ることを避けるため、次の手順にしたがってください。

1. バージョン **2.2.2 pl25** 以前で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモします。

```
SHOW CONFIG
```

3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定なし」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

```
CREATE CONFIG=boot.cfg
```

4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、**2.5.3 pl06** にバージョンアップします。
6. バージョン **2.5.3 pl06** で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。

```
SET CONFIG=xxxx
```

8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。

```
DELETE FILE=boot.cfg
```

9. 以上です。


3 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.3 p104 から 2.5.3 p106 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9600 シリーズ コマンド リファレンス 2.5」(Rev.B)をご覧ください。

3.1 ソフトウェアウォッチドッグ


問題検出時にシステムをリブートさせることでハングアップを回避するソフトウェアウォッチドッグ機能が実装されました。これにより、既存のハードウェアウォッチドッグでは検出できなかった論理エラーによるハングアップなどへの耐性が高まりました。

3.2 フラッシュファイルシステムの改良

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」


フラッシュファイルシステム上に矛盾があった場合、その矛盾を訂正する機能が追加されました。

3.3 Rapid STP

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」


従来のスパンニングツリープロトコル (STP) よりも構成変更時の収束時間が短い Rapid STP (RSTP) (802.1w) に対応しました。デフォルトの動作モードは STANDARD モード (従来の STP) ですが、SET STP コマンドの MODE パラメーターで RAPID モード (RSTP) に切り替え可能です。また、ブリッジ関連パラメーターは SET STP コマンドで、ポート関連パラメーターは SET STP PORT コマンドで変更します。

3.4 SET IP RIP コマンドの NEWIPADDRESS パラメーター

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」


既存 RIP インターフェースの設定を変更する SET IP RIP コマンドに、NEWIPADDRESS パラメーターが追加されました。このパラメーターは、IP パラメーター (隣接 RIP ルーターの IP アドレス) の値を変更するときに使います。

3.5 ENABLE/DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンド (AT-FL-03)

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP/IGMP Snooping 使用時、All Group への所属可否をポートごとに変更できるようになりました。デフォルトでは、ルーティングプロトコルパケット (RIP、OSPF など) を受信したスイッチポートは All Group 所属となり、同ポートにはすべてのマルチキャストパケットが出力されますが、この動作が望ましくない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドでポートが All Group 所属にならないよう設定を変更できます。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.6 MVR (AT-FL-03)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「MVR」

マルチキャスト VLAN という特殊な VLAN を定義して、特定グループ宛てのマルチキャストトラフィックを効率的に配信・制御する MVR (Multicast VLAN Registration) 機能が追加されました。マルチキャスト VLAN は、送信者を接続するソースポートと受信者を接続するレシーバーポートから構成される特殊な VLAN で、あらかじめ設定したグループ宛ての IP マルチキャストパケットだけを配信する性質を持ちます。通常のマルチキャストルーティングでは、受信可能なグループをスイッチポートごとに制限することはできませんが、マルチキャスト VLAN では、特定のスイッチポートに対して、あらかじめ設定したグループ宛てのパケットだけを配信できます。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

3.7 MLD (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD」

IPv6 のマルチキャストグループメンバーを管理するためのプロトコル、MLD (Multicast Listener Discovery) に対応しました。本機能は IGMP の IPv6 版に相当するもので、通常マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-SM (PIM6-SM) と併せて使用します。ご使用には IPv6 のフィチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

3.8 PIM6-SM (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」

IPv6 用のマルチキャスト経路制御プロトコルとして PIM-SM (Protocol Independent Multicast - Sparse Mode) に対応しました。アドレス体系が異なることと、モジュール名が PIM6 であることを除けば、IPv4 用の PIM-SM (AT-FL-03) とほぼ同じ要領で設定が可能です (本製品では、IPv4 用の PIM モジュールと区別するため、IPv6 用の PIM モジュールを PIM6 と呼んでいます)。ご使用には IPv6 のフィチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。なお、IPv6 用の PIM-DM (PIM6-DM) は現在未サポートです。

4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl04 から 2.5.3 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.B) をご覧ください。

4.1 SET PIM コマンド PRUNEHOLDTIME パラメーターのデフォルト値変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターのデフォルト値が 60 秒から 210 秒に変更されました。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.5.3 pl04** から **2.5.3 pl06** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 テキストエディター（EDIT コマンド）で特定の操作を行った場合にシステムがリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.2 SET LOADER コマンドの HTTPPROXY パラメーターが機能していませんでしたが、これを修正しました。
- 5.3 SHOW INTERFACE コマンドの COUNTERS オプションで表示される MIB-II カウンターの ifInDiscards、ifOutDiscards、ifOutErrors が正しくカウントアップされませんでした、これを修正しました。
- 5.4 ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 5.5 RMON MIB の etherHistoryIntervalStart が historyControllInterval の間隔で更新されませんでしたが、これを修正しました。
- 5.6 DISABLE SWITCH PORT コマンドでスイッチポートをディセーブルに設定した後、設定を保存しシステムを再起動すると、該当スイッチポートの所属する IP インターフェースがリンクアップしたままの状態になることがありましたが、これを修正しました。
- 5.7 ポートセキュリティ機能において、ロックされたポートのケーブルを抜くと、ロックが解除されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.8 ハードウェア IP フィルターにおいて、コマンドラインから TYPE パラメーター（L3 プロトコルタイプ）を条件とするフィルターエントリを作成した場合（例：ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY TYPE=0806 ACTION=SEND COS）、まれに正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.9 ADD/SET IP ROUTE FILTER コマンドの PROTOCOL パラメーターに無効なオプション STATIC と INTERFACE を指定できていましたが、これを修正しました。
- 5.10 ADD/SET IP ROUTE FILTER コマンドの PROTOCOL パラメーターに ANY を指定した場合、IP ルートフィルターの適用対象外である BGP 経路にもフィルターが適用されていましたが、これを修正しました。
- 5.11 PIM-DM（AT-FL-03）において、本製品が Assert Loser のとき、Prune Limit Timer 満了後に上流ルーターからマルチキャストパケットを受信しても Prune メッセージを送信しないため、Assert Winner との間で Assert メッセージのやりとりが頻繁に発生していましたが、これを修正しました。


- 5.12 PIM-DM、PIM-SM (AT-FL-03) において、システム再起動後、Triggered_Hello_Delay 時間内に Hello メッセージを送信しないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.13 PIM-DM (AT-FL-03) において、Assert Loser から Prune メッセージを受信しても Prune Ack を返しませんでしたが、これを修正しました。
- 5.14 PIM-SM (AT-FL-03) において、Join 中に上流ルーターの Generation ID が変更された場合、隣接関係の確立前 (Hello メッセージの送信前) に Join メッセージを再送してしまうため Join に失敗し、結果として、次の Join メッセージを送信するタイミングまでマルチキャストトラフィックを受信できなくなっていました。これを修正しました。
- 5.15 PIM-SM (AT-FL-03) において、本製品が RP のとき、受信者側ルーターから (S,G,RP) Prune メッセージを受信しても、マルチキャストトラフィックの送信を停止しませんでしたが、これを修正しました。
- 5.16 ファイアウォール (AT-FL-02) において、PUBLIC 側でマルチキャストパケットを破棄した場合、「Dir=OUT」で Deny イベントが記録されていましたが、正しく「Dir=IN」で記録されるよう修正しました。
- 5.17 ファイアウォール (AT-FL-02) において、PUBLIC 側に PROTOCOL=ALL を指定したスタンダード NAT ルールを設定すると、ICMP_FORWARDING が無効であっても PUBLIC 側からの ICMP パケットを PRIVATE 側に転送していましたが、これを修正しました。
- 5.18 ファイアウォール (AT-FL-02) において、PUBLIC 側にリバース NAT ルールを設定する場合、ADD FIREWALL POLICY RULE コマンドの GBLREMOTEIP パラメーターに (本来はできないはずの) 複数アドレスの範囲指定が可能になっていましたが、これを修正しました。
- 5.19 ファイアウォール (AT-FL-02) において、インターフェース NAT またはルール NAT を使用している場合、フラグメントパケットを透過するように設定しても、再構成後の IP データサイズ (L4 パケットサイズ) が 1780 Byte を超えるパケットが IPSPOOF アタックと認識され、通信ができませんでした。これを修正しました。
- 5.20 ファイアウォール (AT-FL-02) において、TCP セッションの終了時に TCP RST パケットを返信することがありましたが、これを修正しました。
- 5.21 DHCP サーバー機能において、MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。これを修正しました。
- 5.22 DHCP サーバー機能において、リース延長要求の受信時に ARP エントリーを自動作成せず、ARP Request パケットを送出していましたが、これを修正しました。

5.23 DHCP サーバー機能において、静的割り当てエントリが存在する DHCP レンジ内のアドレス割り当てが行われなくなることがありましたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl06 には、以下の制限事項があります。


6.1 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）に 92 以上の値を指定した場合、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されません。

6.2 SNMP MIB オブジェクトについて

 **参照** 「ユーザーマニュアル」 5-11 ～ 5-13 ページ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB-II の ifInErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

6.3 NTP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


本製品のシステムクロックと NTP サーバーのクロックの間に 34 年 9 日 10 時間以上の差がある場合、本製品の NTP クライアントは NTP サーバーに同期できません。

6.4 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

6.5 SHOW SWITCH PORT コマンドの表示について (9606T のみ)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


9606T では、リンクアップしているスイッチポートの通信速度を変更した場合、該当ポートをいったんリンクダウン・リンクアップさせないと、SHOW SWITCH PORT コマンドの表示項目 Actual speed/duplex に反映されません。

6.6 フローコントロールについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分を「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

6.7 ポートトランッキングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


トランクポートからパケットを送出しているとき、LINK/ACT (L/A) LED が点滅しません。

6.8 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


- 本製品 (CPU) が送信するパケットは、ソースポートがタグ付き・タグなしのどちらであっても、タグ付きでミラーポートから出力されます。
- システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されます。

6.9 ポートセキュリティについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


- ポートセキュリティがオンのポートで受信したパケットの VLAN ID が、ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、アドレスを FDB に登録します。
- ポートセキュリティがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリも削除されます。
- ポートセキュリティがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストがマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録します。ただし、通信には影響ありません。

6.10 スパニングツリープロトコルについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリープロトコル有効時、フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧しなくなります。フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しないでください。

6.11 ハードウェア IP フィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」


- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチしてしまいます。

6.12 PPPoE の認証について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」 / 「概要」


PPPoE クライアントの設定において PPP パスワードを間違えた場合、システム再起動後、試行を繰り返してしまいます。

6.13 ICMP メッセージについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

6.14 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」

TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリブートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。

6.15 IP 統計情報の表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

- ファイアウォール (AT-FL-02) 有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信/パケットカウンタ (ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンタがカウントされません。

6.16 ディレクティッドブロードキャストアドレス宛のパケットについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

- 異なるネットワークからディレクティッドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレ

スがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスがセットされます。


- IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティッドブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできません。
- ディレクティッドブロードキャストフィルタリング有効時（デフォルト有効）、ディレクティッドブロードキャストパケットを連続して受信すると、CPU 負荷率が上昇することがあります。

6.17 RIP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御（RIP）」

ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。

6.18 OSPF について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御（OSPF）」

- ASBR から受信した AS 外部経路をルーティングテーブルに反映しないことがあります。このような場合は、RESET OSPF コマンドを実行してください。
- ABR として動作する本製品にスタブエリアを設定した場合、設定保存後システムを再起動すると、スタブエリアにデフォルトルートを通知しなくなります。

6.19 IP ルートフィルタについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御フィルタ」

IP ルートフィルタで OSPF 経路をフィルタリングする場合、フィルタリング対象の経路が隣接ルーターの LSDB にすでに登録されていると、その隣接ルーターと隣接関係を確立することができません。

6.20 DNS サーバアドレスの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバアドレスが動的に取得されます。

6.21 DNS キャッシュについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

6.22 ソフトウェア IP フィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」


- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。
- 1 つの IP フィルターに対して複数のエントリーを作成した場合、パケットが 2 つ目以降のエントリーにマッチした場合のパフォーマンスは、1 つ目のエントリーにマッチした場合よりも低くなります。
- 本製品が送信するパケット（PING コマンド実行により送信される ICMP パケットなど）に対してはポリシーフィルターが機能しません。本製品がルーティングする通常のパケットに対しては正しく機能します。

6.23 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースがナチュラルサブネットでない（ネットマスクがクラス標準マスクでない）、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

6.24 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。
- Path MTU Discovery が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされないことがあります。

6.25 IPv6 インターフェースの設定について (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

6to4 プレフィックスを持つアドレス（2002: で始まる 6to4 用のアドレス）を、実インターフェースに割り当てることができません。

6.26 PIM-DM (AT-FL-03) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。

- Prune 状態のインターフェースが Graft しても、経路エントリーの Prune limit time が 0 にリセットされません。これは SHOW PIM コマンドの表示だけの問題であり、マルチキャストパケットの転送は正しく行われます。

6.27 PIM-SM (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- 本製品が BSR に選出されているとき、優先度が同一で、なおかつ、より大きな IP アドレスを持つ C-BSR からメッセージを受信しても、BSR の切り替えが行われません。このような場合は、設定をファイルに保存した後、システムを再起動してください。

6.28 PIM6-SM (AT-FL-13) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」**


- Assert メッセージが送信される状況下においてシステムを再起動すると、再起動後 Assert メッセージを送信しなくなることがあります。
- SET PIM6 コマンドの BSMINTERVAL パラメーターでブートストラップメッセージの送信間隔を変更しても、ブートストラップメッセージ内の Holdtime に反映されません。
- 本製品が BSR として動作しているとき、隣接ルーターから Hello メッセージを受信しても、その隣接ルーターに対して、ブートストラップメッセージをユニキャストで送信しません。

6.29 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」**

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。
- PRIVATE 側に設定した Deny ルールでパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Number Dropped Packets カウンターがカウントされません。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

6.30 VRRP について

 **「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」**

- CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。

- CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、不要なメッセージがログに記録されることがあります。

6.31 DHCP サーバー機能について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。

7 ユーザーマニュアル・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱のユーザーマニュアル、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (Rev.B)」の補足事項です。

7.1 FAULT LED について

参照 「ユーザーマニュアル」 1-9, 6-5, 6-18 ページ

本体前面 FAULT LED (赤) の点滅の表示内容に誤りがありましたので、以下のとおり訂正してお詫びいたします。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本体、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
		点滅	1 回点滅： ファンに障害があります。
			3 回点滅： リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の DC 電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。
			4 回点滅： SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドで ON が指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。
			5 回点滅： SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドで ON が指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の DC 電源ケーブルが接続されていません。
		消灯	システムに異常はありません。


7.2 HTTP サーバー (サポート対象外) について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP のポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にすることをおすすめします。

7.3 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて


受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

7.4 ポートトランッキングについて

 **参照** 「ユーザーマニュアル」 3-7 ～ 3-10 ページ

- バージョン **2.2.2 pl18** で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン **2.2.2 pl18 以降** を搭載した機器とバージョン **2.2.2 pl10** を搭載した機器間ではポートトランッキングの接続はできませんのでご注意ください。
- バージョン **2.2.2 pl18** で、ポートトランッキングと VLAN 間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST（終点 IP アドレス）」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。

7.5 フローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE) について


 **参照** 「ユーザーマニュアル」 3-6 ページ

「ユーザーマニュアル」 3-6 ページにフローコントロールについての説明がありますが、本製品のフローコントロール (IEEE 802.3x PAUSE) は、PAUSE フレームの受信のみをサポートしています。「バッファメモリーを監視し、空きが減少してくると PAUSE フレームを送り出す」という動作は行いませんので、訂正してお詫びいたします。

PAUSE フレームを受信した場合は、PAUSE フレームの送信元である接続機器に対して送信を一時的に停止し、フロー制御を行います。


なお、9606SX/SC は Half Duplex での通信はサポートしておりません。


7.6 フォワーディングデータベースについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

7.7 ハードウェア IP フィルターについて

 **参照** 「ユーザーマニュアル」 4-36 ページ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- 「ユーザーマニュアル」 4-36 ページに、注意事項として「ハードウェア IP フィルターは、本体宛のパケット、および送信元 MAC アドレス未学習のユニキャストパケットに対しては適用されません。」とありますが、本製品にこのような制限はありませんので、訂正してお詫びいたします。
- IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、Ethertype = 0x86DD (IPv6) の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーがマッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。

7.8 DVMRP (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」**

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目)には対応していません。

8 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能
以下の項目は付属のユーザーマニュアルに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

バックプレッシャー (9606T のみ)
BOOTP サーバー

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BRI, CLASSIFIER, ENCO, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RADIUS, RSVP, SA, SERVICE, SSH, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (Rev.B)」に記述があります。

COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]
SET PING [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH SOCK

SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ;
100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHAF}]

CREATE/DESTROY IP POOL

SHOW IP POOL

ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY

ADD/DELETE IP EGP

ENABLE/DISABLE IP EGP

SHOW IP EGP

ADD/DELETE IP SA

SHOW IP SA

SET IP ARP [DLCI] [CIRCUIT]

SET IP FLOW

SHOW IP FLOW

SHOW IP CACHE

SHOW IP ROUTE [CACHE]

SHOW IP ROUTE TEMPLATE

SHOW IP ROUTE MULTICAST

ENABLE/DISABLE IP FOFILTER

ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING

ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]

ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

SET DVMRP [DLC]

SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]

ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]

SET IPV6 FILTER [PRIORITY]

SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]

ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC

ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC

ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY

ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCE

ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER

ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [LIST=RADIUS]

SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN

SET FIREWALL POLICY ATTACK

ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY

ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS

ADD/DELETE QOS

SET QOS PORT

SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]
[NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE]
[TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRRESH]

ADD/DELETE/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]
SHOW PIM6 [STATEREFRRESH]

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

9 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6873-04 Rev.B)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6873-04 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>